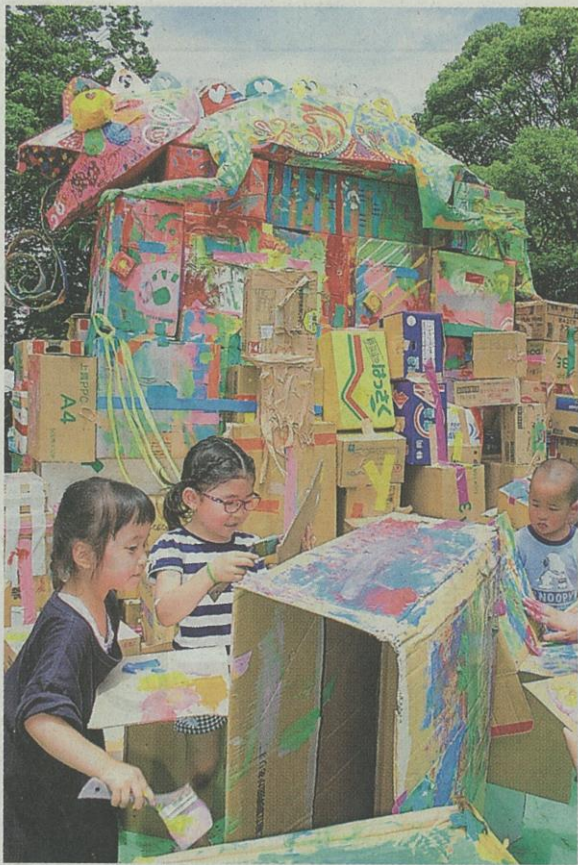


自由に絵の具で創作

松戸の
聖徳大生 子どもとアート交流

段ボール製の秘密基地をキャンパスに見立てて、絵の具を自由に塗ってもらったりするイベントが2日、松戸市の松戸中央公園で開かれた。子どもたちは思い思いに色を重ねて創作活動を楽しんだ。

遊びとアートの一日アーツ学生らが運営した。色塗りマパーク「アートパーク10」や工作など13種類の遊びを「ラブ&ピースの大作戦」と題し、地元聖徳大学の「同大の大成哲雄ゼミ（児童学）のワークショップ」は、「ハッピーカミオン」では、段ボールを使って秘密基地を設置。ここに色付け



思い思い、自由に絵の具を塗っていく子どもたち＝2日、松戸市

をしてもらった。子どもたちは汚れを気にせず、はけやローラー、最後は手も使って夢中でカラフルな色に仕上げた。

髪まで絵の具が付いた児童学科保育士養成コース3年の池田美由さん(20)は「思ったより積極的でうれしいです」と、子どもたちの笑顔と創造性を引き出していた。

大成教授は「子どもたちがやりたいことをやりたいうように実現する良い体験。学生にとっても学内を出て地域の人、地域の子どもたちを知る勉強の場になっている」と見守った。

ローラーとはけを手にした玉城あかりさん(7)、あやかちゃん(5)姉妹は「いろいろ混ぜたら、こんな色になっちゃった」。オレンジともピンクともつかない明るい色になった絵の具で、カメレオンの載った秘密基地を楽しそうに塗っていた。